



JSQC ニュース

No.252

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス「横断型基幹科学技術研究団体連合」の活動動向
- 2-私の提言 フリーのSQCツールを提供する
- 2-ルポルタージュ 第293回見学会ルポ(関西)
- 3-第295回見学会ルポ(本部)/4月入会者紹介/会員名簿改訂のお知らせ
- 4-頒布のお知らせ/行事案内

「横断型基幹科学技術研究団体連合」の活動動向

筑波大学大学院経営システム科学専攻・専攻長 橋 広計

横断型基幹科学技術研究団体連合 (Transdisciplinary Federation of Science and Technology 略称: 横幹連合、会長: 吉川弘之・産業技術総合研究所理事長) は、科学技術の基礎となる基幹的方法論の発展を目的として、2003年4月に発足した研究団体を会員とする連合です。文理にまたがる41の中小規模の学会が参画しており、各学会の個人会員数を合計すると6万人程度の規模になります。

JSQCは、横幹連合の中では計測自動制御学会、精密工学会などに次ぐ大きな学会ですが、経営基幹技術関連学会では、日本経営工学会、オペレーションズ・リサーチ学会、経営情報学会、日本経営システム学会、日本品質工学会、日本信頼性学会、オフィス・オートメーション学会、プロジェクトマネジメント学会なども会員です。

横幹連合の理念は、2004年度まで活動を続けていた文部科学省振興調整費科学技術政策提言プログラム「横断型科学技術の役割とその推進」(代表者: 木村英紀教授・横幹連合副会長・企画委員会委員長、東京大学大学院新領域創成科学研究科、現在・理研) が計測制御情報、人間・ロボット、システムズ・マネジメント、モデル・コンピューティング、生産・設計、社会技術・環境といった分野毎のテーマや、基幹科学技術の教育などの課題について分

科会を構成し、企業ヒアリングなどを通じて検討してきたものを基盤として、この前駆的活動にJSQCからは、飯塚悦功会長(東京大学大学院工学系研究科)が生産・設計分科会に、長田洋教授(山梨大学大学院工学系研究科)が参画されました。筆者は、上記政策提言プログラムのモデル・コンピューティング分科会の幹事を経て、応用統計学会を代表する代議員として連合に参画し、同連合の企画委員となりました。

さて、横幹連合の活動の中でJSQCとの関わりで注目すべきものは、「シミュレーションとSQC」調査研究委員会(委員長: 高橋朗(株)デンソー会長・日本品質管理学会顧問)です。この活動は、昨春のJSQC理事会で高橋会長がデジタルエンジニアリング技術を前提とした品質管理技術の見直しをJSQCが積極的に行うべきとの主旨の発言をされたことに端を発します。JSQCでは、天坂格郎教授(当時、研究開発委員会委員長、青山学院大学理工学部)が研究会活動を企画し、数値シミュレーションに基づくQCの組織的推進を図ったのですが、CAEや数値計算の専門家がいないため研究組織構成の困難に直面しました。筆者がこの状況を横幹連合企画委員会キックオフミーティングの自由討論で紹介したところ、昨年9月に天坂JSQC研究開発委員長と木村横幹連合企画委員長との会談が実

現し、横幹連合に「シミュレーションとSQC」調査研究委員会を設置し、各研究団体連合からエキスパートを募り研究活動を支援する方針が決まり、昨年12月の横幹連合臨時総会で「シミュレーションとSQC」調査研究委員会がJSQCを幹事学会として設置することが承認されたのです。本年1月の同委員会立ち上げの準備会には、エキスパート派遣学会として、日本感性工学会、日本数理科学協会、日本バーチャリティ学会、オブザーバー派遣学会として、応用統計学会、日本応用数理学会、日本経営工学会、日本コンピュータ化学会、日本信頼性学会、日本知能情報ファジィ学会、日本デザイン学会が参画しました。本年5月15日には、名古屋工業大学で第1回の委員会を開催しました。当日はJSQCの計画研究会と横幹連合との共同で、今後研究すべき課題マップ作成を目的としたワークショップも開催します。まだまだCAEの専門家にQCという問題意識を共有していただくのは難しい状況ですが、第1回活動を契機に問題点を広く横幹連合に投げかけてゆきたいと考えています。

この他にも、横幹連合では「設計プロセス工学」という分野の構築を目指す活動や、「知的財産権問題」に対する政策提言なども行っています。ご関心のある方は、ぜひウェブページ(<http://www.trafst.jp/>)をご参照いただければ幸いです。

私の提言

フリーのSQCツールを提供する

関西大学 教授 荒木 孝治



タイムマシンの作者として知られる小説家H.G.ウェルズは、「有能な人間の条件として、読み書きの能力に加えて統計的思考が要求される日が来るだろう」という内容の発言を1904年に行いました。100年を経過した今、この予言は実現しているのでしょうか。1950年のデミング博士の招聘セミナーを統計的品質管理（SQC）の導入年と位置づけますと、少なくとも日本の製造業においては、この予言は50年も前から実現していると判断できます。

一般に、読み書きの能力をリテラシーと言いますが、その内容は時代とともに変化します。品質管理の世界にお

いては、データを取り扱うためのリテラシーである統計的思考の重要性が半世紀も前から認知されていたわけです。そして現在では、コンピュータに関する知識もリテラシーの不可欠な要素となりました。

では、統計的思考とコンピュータに関して、これらが両輪となってTQMの重要な要素であるSQCを有効に進める体制が整っていると言えるのでしょうか。これに関しては疑問の余地があります。その理由の一つとして、“自由に”利用できるSQCソフトウェアの欠如を挙げることができます。商用のソフトウェアは多くありますが、企業や教育機関において統計ソフトウェアの大量導入は困難です。そこでフリーなソフトウェアの存在が必要となります。表計算ソ

フトで代用することも考えられますが、これはかなりストレスを伴う作業となります。

ソフトウェア開発の近年の特徴として、オープンソースプロジェクトがあります。これは、開発したソフトウェアを自由に無料で利用してもらうとともに、プログラムの中身（ソースコード）を開示することにより、信頼性の高いソフトウェアの開発を目指すという活動です。この形で開発されている代表的なものがリナックスです（最近では、様々な国の政府機関がウィンドウズからの代替OSとしてリナックスの導入を検討しています）。

品質管理の世界をあらためて眺めてみますと、オープンソースの動きから少し遅れていると感じます。学会として、統計的品質管理のための信頼のおけるフリーソフトウェアを、TQM活動を行っている組織にSQCツールとして提供することは、産業や社会に対する重要な貢献の一つと考えます。

第293回関西
事業所見学会
ルポ月桂冠株式会社
「日本酒のリーディング
カンパニー」

中島昭午関西支部長（エス・バイ・エル株代表取締役CEO）のご友人の多賀株会長・中川泰三様の肝煎りで、今回は月桂冠株を訪問しました。38人の参加者があり、久しぶりに盛況な事業所見学会となりました。月桂冠株は、京都伏見で1637（寛永14）年に創業した清酒醸造の老舗のメーカーで、日本酒のリーディングカンパニーです。まず大蔵記念館で集合し、会社概要と酒造りの変遷についての説明を受けた後、記念館では、昔の酒造りの状況を見学しました。

館内は、酒造りの作業に合せた「酒造り唄」が流れ、昔の酒蔵の雰囲気は漂っていました。酒は、原料の米にコウジ菌をつけて酒母を作り、発酵させ、糖化とアルコール発酵のバランスをとりながら美味しいお酒にします。そのため工程では、温度と時間管理が大切で、

この「酒造り唄」は温度管理のために唄ったとのこと。また、月桂冠では、1961年に、日本最初の四季醸造倉を設置されました。杜氏さんによる冬場だけの酒造りを早く工業生産化されたわけです。

次に、我々はこの記念館を後にし、バスで四季醸造倉の大手蔵の方に移動しました。そして、工業生産の状況を見学しました。バイオ化学等の近代的な分析法を導入した工程管理と、一方では「きき酒」という人による官能評価による工程検査とを併用された工程管理の状況を見せていただきました。常に安定した品質作りに取り組んでいる様子が理解できました。

見学を終えた後に、参加者全員で、吟醸酒、純米酒、普通酒、生酒の「きき酒」を体験し、質疑応答時間が設けられましたが、品質管理に関することや個人的なお酒の質問等が飛び交い、時間が終われないほど賑やかな事業所見学会となりました。やや紅潮した顔で、帰路についた参加者の皆さんは、きっとどこかに立ち寄られたものと思います。

野口 博司（流通科学大・商学部教授）

第295回本部
事業所見学会
ルポ

株式会社クロス・ロード
ハートぱすてる事業部
訪問介護サービス部門

2004年3月9日、24名の参加者が「2002年度日本品質奨励賞・TQM奨励賞（医療・福祉業界では国内初）」を受賞した(株)クロス・ロード ハートぱすてる事業部訪問介護部門を訪ね、「お客さま満足を目指すホームヘルプサービス」についてご講演と事例発表により、取り組み状況の報告と成果について学ばせていただいた。

訪問介護部門は、1999年ISO9001認証取得（訪問介護サービスでは世界初）し、品質マネジメントシステム面を強化するとともに、2000年介護保険導入に伴い、在宅介護支援事業（ケアマネジャー）を開始し2001年ハートぱすてる成田開設（通所介護サービス（デイサービス））、訪問介護サービス事業を展開し、「サービス業における標準化と人材育成」に照準を合わせ活動を展開され2002年度日本品質奨励賞・TQM奨励賞を受賞された。

「日本品質奨励賞・TQM奨励賞」は、日科技連の創

立50周年を記念して2000年に創設した賞である。

見学会の冒頭に富田社長が、訪問介護サービス活動のねらいを“パートナーシップを如何にマネジメントするか”について、目標（仕組）として、医療関係者が成長していく、皆が意見を出し合い改善していく、適正な利益を上げ将来の事業へ繋げる事の3点を挙げられ、ヘルスケアへTQMの仕組みを活用し、お客さま満足へ繋げているとの紹介があった。

引き続き、職場の方々から杉並区を中心に在宅介護の概要説明があり、標準化プロセスの紹介事例では、訪問サービスが単独で提供するサービスゆえに、サービスのばらつきが大きいことを如何に標準化するかがポイントであるとお話があった。

もう一つのポイントが、人材育成である。“私たちの事業は「教育事業である」と話している。顧客と職員の方々は、サービスを通してお互いが成長するパートナーであると言われている。

あらためて今回の見学会にご尽力くださった関係者の皆様に感謝する。

青木 一男（日本科学技術連盟）

2004年4月の
入会者紹介

（正会員18名） 松田 宏二（西円山病院） 藤村 博司・田原 正人（日本電気(株)） 保川 仁（東京理科大学） 依田 優（建材試験センター） 合田 憲和（光洋精工(株)） 浅井 達雄（長岡技術科学大学） 赤松 伸（安積濾紙(株)） 中野 昌之（富士重工

業(株)） 上田 貴士（三菱住友シリコン(株)） 大山 江美（パイオニア(株)） 山本 太郎（富士写真フイルム(株)） 弓長 伊雄（山本電気(株)） 木野山 博文（(株)日本総合研究所） 米澤 哲郎（(株)出雲村田製作所） 川口 恒生（旭硝子(株)） 林 正樹（オーエスジー(株)） 磯野 聖（(株)アルゴ21）

（準会員11名） 久 毛措（朝日大学）

柴田 博志・小竹 由華・田中 美香・兼城 由紀子・本望 諭・堤 啓太・村瀬 友行・杉森 大輔・清水 隆之・藤原 拓（長岡技術科学大学）

正 会 員：3084名
準 会 員：125名
賛助会員：178社204口
公 共 会 員：22口

会員名簿改訂のお知らせ

当学会では、3年ごとに会員名簿の改訂を行っています。新名簿は本年8月末発行を予定しております。

今回は、利用上の便宜と経費削減を考慮いたしまして、原則としてCD-ROMで配布させていただくことにいたしました。何とぞご理解のほど、お願い申し上げます。

同封のお知らせをご覧いただき、名簿記載事項を確認の上、7月2日 までに本部事務局宛にファクシミリまたは郵送でご返送くださいますようお願い申し上げます。

今後は学会からの情報を、E-mailで発信することが多くなりますので、できる限りE-mailアドレスの登録をお願いいたします。

名簿改訂用紙送信先（本部事務局） FAX 03-5378-1507

事務局からのお知らせ

「次世代型小集団活動実践研究会 研究報告書」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. **申込方法**：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申込先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. **資料代**：1冊(A4判109頁) 会員1,600円(税込み) 非会員2,000円(税込み) 送料(冊子小包)：1冊290円、2冊340円 他多数の場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下記宛お振り込みください。

振込先：日本品質管理学会
三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

行事案内

第74回研究発表会(本部)

日時：2004年5月29日

会場：日本科学技術連盟・東高円寺ビル

プログラム：

10：00～11：30 チュートリアルセッション
(2会場同時講演)

A：「ステップアップSQC “ 回帰分析 + グラフィカルモデリング 因果推論 ”，“ 判別分析 + 管理図 MTS法 ”

永田 靖氏(早稲田大学)

B：「人育成の今までとこれから - コーチングによるコミュニケーションの見直し - 」

関根光弘氏

(実践経営教育コンサルタント)

12：20～18：10 研究発表会

18：20～19：50 懇親会

参加費：

チュートリアルセッション・研究発表会
会 員6,000円(締切後6,500円)
非会員8,000円(締切後8,500円)
準会員3,000円・一般学生4,000円

研究発表会のみ(午後のみ)

会 員4,000円(締切後4,500円)
非会員6,000円(締切後6,500円)
準会員2,000円・一般学生3,000円

懇親会

会 員・非 会 員 4,000円
準会員・一般学生 2,000円

申込締切：2004年5月21日

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第299回事業所見学会(本部)予告

見学先：住友建機㈱

日時：2004年7月2日 午後

定 員：30名

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

第97回(中部支部第23回)シンポジウム

日時：2004年7月13日

10：50～16：55

会場：中電本店ビル 中電ホール

テーマ：『日本のものづくり・人づくりに求められているもの』

～JOQIの提言から、今後の方向を探る～

プログラム：

基調講演：“お客様第一”のモノづくり、人づくり、絆づくり(仮題)

佐々木眞一氏(トヨタ自動車㈱)

「日本ものづくり・人づくり質革新機構(JOQI)」活動報告

高橋 朗氏(㈱デンソー・JOQI理事長)

パネル討論会：

事例講演 神田範明氏(成城大学)

事例講演 長田 洋氏(山梨大学)

事例講演 吉川智教氏(早稲田大学)

事例講演 大滝 厚氏(明治大学)

事例講演 米山高範氏(コニカミノルタホールディングス㈱)

定 員：200名(会員優先)

参加費：会 員5,000円・準 会 員2,500円
非会員7,500円・一般学生3,500円

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先・住所を明記の上、中部支部事務局までお申し込み下さい。折返し、参加要領をお送りいたします。

申込締切：2004年7月7日 到着分

第99回シンポジウム(本部)

テーマ：ISOマネジメントシステムの最新情報と企業の取組み

日 時：2004年7月15日
10：00～16：50

会 場：早稲田大学理工学部
57号館201号室

プログラム：

基調講演：ISOのMSSの有効活用(戦略的活用)についての考察

飯塚悦功氏(JSQC会長・東京大学)

発表 品質マネジメントシステム規格の最新情報

飯塚悦功氏(東京大学)

発表 リスクマネジメントシステムの最新情報と企業の取組み
野口和彦氏

(㈱三菱総合研究所)

発表 環境マネジメントシステム規格の最新情報

吉澤 正氏(帝京大学)

発表 企業の社会的責任(CSR)の最新情報と企業の取組み
若井博雄氏

(日本規格協会)

定 員：300名

参加費：会 員5,000円(締切後5,500円)

非会員7,000円(締切後7,500円)

準会員2,500円・一般学生3,500円

申込締切：2004年7月5日

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第75回研究発表会(中部)発表募集

日時：2004年9月3日

10：15～17：15

会 場：名古屋工業大学

申込期限

発表申込締切：6月18日

予稿原稿締切：8月3日 必着

参加申込締切：8月27日

研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

参加申込

7月送付予定の参加申込書にご記入の上、中部事務局までお申し込みください。

行事申込先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org